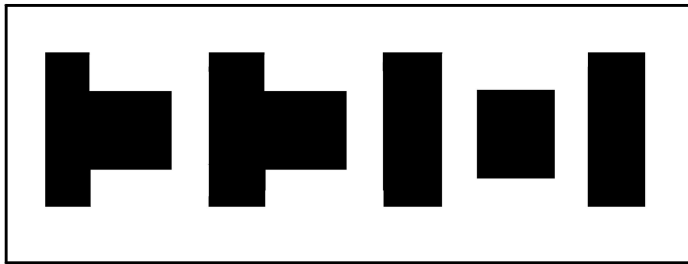


## 校内研修会（外部講師を招いて）に参加して

夏休み最終日の8月31日に県教育センターの指導主事をお招きして校内研修会を実施しました。研修内容は「特別支援教育の推進」でした。

従来あったところの障害の種類（養・聾・盲）や程度に応じ、特殊学級や養護学校等の特別な場で教育を行う「特殊教育」から子ども一人ひとりの教育的ニーズに応じ適切な教育的支援を行う「特別支援教育」にかわるのだというのが最初の説明でした。いえ、校内研修の内容をここで詳しく述べるつもりはありません。

じつは、ここで講師がわれわれ教職員に一つの疑似体験をさせました。一般にLDといわれる学習障害のある生徒には物の見え方が異なるのだと…。その生徒に対して「もっとしっかり見なさい」とか「ちゃんとしなさい」とか「さっきも言ったでしょう」という激励？は何の意味も為さないと言うのです。さて、その疑似体験とは次の図から文字を読み取りなさいというものです。



研修参加職員は私を含めて20名いました。ほとんど提示されたと同時に「わかった」という職員が数名いました。講師は3分ほど待ったでしょうか。結局私ひとりがここに描かれている文字を読み

取ることができませんでした。この時の私の気持ちの変化を記します。初めは目を凝らして読み取ろうとします。あちこちで「わかった」の声が聞こえてきます。少しあせってきます。でも見えません。講師は「もっとしっかり見なさい。」とせかします。そのうちまあ見えなくてもしょうがないかとあきらめムードになります。と回りに目をやると私以外の全員が誇らしげに手を挙げています。その誇らしげの表情は私から見ると「まだ分らんのか」という侮蔑の目に見えます。早々と見えた方には敬意を表します。しかし、今研修会で学習障害のある生徒の気持ちを最も体感できたのは私であろうと思っています。

あなたは体感できますか。